



健康ビッグデータの活用などをテーマに意見を交わす(左から)石川頭取、宮下知事、福田学長、桂木・弘大招へい教授

健康データで地域づくり

弘前県が新組織フォーラム

県は31日、健康や医療分野の研究成果を生かした新産業の創出を目指す新組織「あおもりWellbeing(ウエルビーイング)Bizプラットフォーム」の発足を記念したキックオフフォーラムを弘前市のアートホテル弘前シティで開いた。弘前大や県、県内企業、金融機関などの関係者ら約230人が参加。意見交換や講演を通して、健康ビッグデータを生かした地域づくりや、ウエルビーイング(心身ともに健康で幸せな状態)の実現に向けた連携の在り方について理解を深めた。

宮下宗一郎知事が「岩木健康増進プロジェクトで蓄積された世界唯一のビッグデータは本県の強み」と述べ、「ウエルビーイング関連産業の創出によって県内外の企業の関心を高め、企業誘致にもつなげたい」と期待を寄せた。

トークセッションでは、弘大の福田眞作学長が「地域を支える最大の資源は人」とし、働く人のウエルビーイングを高めることが地域の持続的な発展を支えるとの考えを示した。

青森みちのく銀行の石川啓太郎頭取は、従業員が働きやすく、やりがいを持って働ける職場づくりが企業の魅力を高めるとし、「企業のウエルビーイングは地域のウエルビーイングにつながる」と強調した。

花王研究開発部門特命エキスパートの桂木能久氏(弘前大学院医学研究科招

へい教授)は、健康ビッグデータを生かし、地域課題の解決と持続可能な事業の創出を両立させることが重要とした。

プラットフォームは、弘大が文部科学省の共創の場形成支援プログラム(CO-I-NEXT)で進める研究成果を地域に還元することを目的に県が設置した。企業と大学などとのマッチングや共同研究、事業化支援などを進める。新商品・新サービスの開発やスタートアップの育成を通して、新産業の創出を後押しする。(菊谷賢)